

2023年度（令和5年度）事業活動報告書

法人の名称 特定非営利活動法人グリーンママ

1 事業の成果

(1) 育児支援に関する事業

「みどりっこ親子の居場所はなまる」（以下はなまる）「緑区地域子育て支援拠点いっぽ」（以下いっぽ）の運営、『みどりっこカレンダー』『みどりっこひろば』を通じた子育てに関する情報の提供など行い一定の成果を上げた。新型コロナウイルス感染症が5類に移り、交流の場所に出向く人が増えた。交流の大切さを考えながら安全を確保した親子の居場所の運営を行った。

はなまるでは、利用料を無料としたこともあり利用者が増えた。短時間の利用も増えている。年齢別の利用時間帯をもうけるなど、安心して過ごせる配慮をしながら、気軽に立ち寄れる場所になるよう運営した。一時預かりの利用も増えている。ふだんの親子で利用しているひろばでの預かりは、はじめて子どもを預ける親の安心感にもつながっている。スタッフを増やししながら預かりの依頼に対応した。

いっぽでは、5年の委託期間の中間年にあたり、事業の振り返りを行った。ひろばで利用者をあたたかく迎える姿勢は変わりなく行いながら、来所する親子だけでなく地域に出向いて交流の機会を設けたり、多様な養育者がいっぽにつながるよう工夫した。また、いっぽの二つ目の施設サテライト開所にむけて、より利用しやすい施設になるよう検討をすすめた。

(2) 障がいのある子どもと親への支援事業

子どもの発達に不安のある親が交流できる場として、いっぽでの「気になる子のサロン」、中山地区での「なないろ★ほっとタイム」を継続して開催した。当事者である先輩ママにも参加してもらい、生きた情報交換ができる場になっている。場の開催をとおして、緑区近隣の障害児者に関わる事業所との連携もすすめることができた。

(3) 児童及び青少年の健全育成にかかる事業

いっぽにて学生のボランティアや実習受入れ行い、これから親になる学生が乳幼児とふれあえる機会を提供した。

2 事業内容

(1) 育児支援に関する事業

①「みどりっこ親子の居場所はなまる」の運営

実施日時	月～金曜日 午前9時30分～午後4時45分 土曜日（月1回）午前9時30分～午後2時30分
実施場所	みどりっこ親子の居場所はなまる
従事者	3人/1日
対象	緑区及び近隣在住の未就学児とその保護者（おもに0～3歳児）
支出額	12,248,207円
事業実績	<ひろば> 年間利用者数（大人・子ども）：5,110人（3,715人） 一日当たりの平均利用者数：20.6人（14.9人） 新規登録差者数（子どもの数）：233人（190人） <一時預かり> のべ預かり児童数：453人（260人） 総利用時間数：1414時間（721.75時間）

【1年間の報告】

- 横浜市からの家賃加算分の増額や、移転により家賃が下がったことにより運営費用に余裕ができた。利用者への還元を考え、4月からひろば利用料を無料とした（新規登録料は据え置き）。それにより、短時間利用や午後利用、特に15時以降の利用が増加した。短時間でも利用することにより、一人あたりの来場回数も増え、親子の交流やリフレッシュにつながっている。
- 昼食時間帯の閉館時間をなくし、一日を通して利用できるようにした。各利用者のペースで利用時間が選べるようになっている。
- はなまるで実施している「マタニティタイム」の周知として、区での母親教室・プレパママ教室・いっぽで行っているプレパママ講座でのチラシの配布をお願いしているが、周知が難しい。プログラムに参加された方は出産後のひろば利用につながっている。

- ・いっぽが行っている中山地区での公園遊びに、はなまるとしてスタッフが参加し、参加者だけでなく地域の支援者とも交流がもてた。
- ・発達に不安等のあるお子さんをお持ちの親が集える場「なないろ★ほっとタイム」をいっぽや中山地域ケアプラザと協力しながら、毎月1回中山地域で開催した。その中で、横浜市北部療育センターの職員や、区のケースワーカー、地域の児童発達支援事業所、市社協の職員等の方々とながらる機会をもつことができた。
- ・一時預かりは4月5月の利用が若干少なかったが、月平均利用人数は38人で多い月では50人を超えることもあり、利用人数が毎年増加している。年齢別では0歳1歳でそれぞれ40%を超えている。理由には、リフレッシュが50%を超えている。現在もひろばでの食事は再開していないが昼食が必要なお子さんを預かる場合は、別室にて対応をしている。

②「緑区地域子育て支援拠点いっぽ」の運営

- ア. 「親子の居場所事業」「子育て相談事業」「情報収集・提供事業」「ネットワーク事業」「人材育成・活動支援事業」「利用者支援事業」

実施日時	火～土曜日 午前9時～午後5時
実施場所	緑区地域子育て支援拠点いっぽ
従事者	7人/1日
対象	緑区及び近隣在住の未就学児とその保護者、子育て支援に関わる人
支出額	37,008,981円
事業実績	年間利用者数（大人・子ども）：22,863人（20,168人） 一日当たりの平均利用者数：93.3人（83.3人）
（）内数値は前年度実績	累計登録者数（子ども）：4,194人（4,262人） 令和5年度新規登録者数（子ども）：742人（791人）
*前年度2か月休館期間あり	新規ボランティア登録人：26人（31人） 年間ボランティアのべ活動者数 608人（605人） 利用者支援事業相談件数 418件（458件）

【1年間の報告】

1. 事業評価を行い、支援の方向性についてアドバイスを受けた
令和5年度は5年の運営委託期間の中間年となったため事業評価を行い、有識者（日本福祉大学渡辺顕一郎先生）によるアドバイスを受けた。拠点事業が始まった18年前とは子育て家庭の状況が大きく変わっている。共働き世帯が増えたこともその一つであり、いっぽでも平日の曜日よりも土曜日の利用者数が多くなっている。土曜日を利用する層に向けた支援をより充実させていく必要があると指摘された。また、シングルマザーや貧困層など、あらゆる人を対象にして事業を考える必要もあり、拠点に来にくい人に向けたアプローチの工夫が求められた。今後の連携先や情報収集先の開拓など、この視点で取組んでいきたい。
2. 地域に出向く取組みに力を入れた
区内7箇所の地域ケアプラザと共催で「公園遊び」を実施した。どの地区でも地域の参加者が増え、ボランティアの参加もあった（のべ参加者252名、支援者29名）。地区ごとにスタッフが担当として入り打ち合わせなど行ったことで、地域ケアプラザとのつながりを深めることができた。この関係を活かして令和6年度に区・いっぽ・地域ケアプラザが事務局となり行う地区別連絡会の開催につなげていく。
3. ひろば相談と利用者支援事業をとおして、子育て家庭の相談を受けた
日々のひろばでの丁寧な対応から、相談ニーズが見えてきている。日常的な子育ての相談から、子どもの発達について、親自身やパートナーについてなど様々な内容を聴いている。子育てパートナー（利用者支援事業）と共有し継続した見守りを行ったり、外部につなげたり、個々の対応を行っている。
4. サテライト開設に向けた準備を行った
令和6年6月開所予定のサテライト設置に向けた取組みを行った。設置場所や、設備・設計に関しては、区の担当者、貸主、設計士と意見交換しながら、使いやすい施設になるよう検討した。スタッフの募集も行い、本拠点と合わせて10名ほどの新しいスタッフが加わった。

5. ママボランティアが活躍する場面が増えた

子どもの入学・入園などで手が空いたという利用者に声をかけ、ボランティア登録をしてもらった。ママボランティアにプログラムの中に入ってもらう機会を増やし、子どもの見守りや、利用者との交流を活発にしてもらった。利用者に近い存在のママボランティアがいることが、交流しやすい雰囲気づくりにつながっている。いっぽでの活動が、地域でのボランティア活動につながるきっかけにもなっている。(のべ活動者 116 人 (前年度 76 人))

6. プレパパプレママ向けの講座を行った

令和 4 年度に引き続き「親になる前の支援事業」を区から受託し、プレパパプレママ向けに「先輩パパによる赤ちゃんのいる生活講座」を年 4 回行った(参加者計 34 組 70 人)。育児経験のある男性講師を依頼し、父親支援を中心とした内容にしている。月齢の低いひろば利用者に声をかけて、先輩パパママとして同席してもらい、講座の中で子育ての体験を話してもらっている。参加者からは、実際の育児について聞くことができ、出産後のイメージが持てたと好評を得ている。

イ. 「横浜子育てサポートシステム」緑区支部運営

実施日時	火～土曜日 午前 9 時～午後 5 時
実施場所	緑区地域子育て支援拠点いっぽ
従事者	3 人/1 日
対象	横浜市在住の 0 歳から小学生とその保護者、子育て支援に関わる人
支出額	10,701,086 円
事業実績 ()内数値は前年度実績	<p>会員数：利用会員 958 人 (794 人) 提供両方会員 271 人 (228 人) 令和 5 年度入会者数：利用会員 312 人 (252 人) 提供両方会員 47 人 (29 人) コーディネート件数：256 件 (242 件) 実働会員数：利用会員のべ 1,094 人 (897 人) 提供・両方会員のべ 818 人 (703 人) 活動件数：5,866 件 (4,458 件) 入会説明会：42 回実施 264 人参加 (45 回 248 人) 〈うち利用会員 227 人・提供・両方会員 37 人〉 個別説明：129 人参加〈利用会員 111 人 提供・両方会員 18 人〉(74 人) フォローアップ研修：7/14 19 人参加 7/28 (社協と共催) 3 人参加 2/3 11 人参加 2/20 7 人参加 交流会：11/10 8 人参加 11/28 2 人参加 子育てサポート通信：3 回発行 「いっぽ保育隊」：活動件数 73 件 のべ活動者 104 人 保育子ども 415 人 (活動件数 61 件 のべ活動者 78 人 保育子ども 333 人)</p>

【1 年間の報告】

- ・提供会員募集のチラシを小・中学校に配布した効果もあり、10 月末の提供会員予定者研修会にはのべ 64 名の参加があり、提供・両方会員登録者も昨年度を上回る人数となった。
- ・新しい提供・両方会員対象の会員交流会で会員の活動の希望などを聞き取ってコーディネートを行い、会員にあった活動につなげることができた。また「いっぽ保育隊」への参加を呼びかけ、提供会員が自信を持って活動に取り組めるように活動の場を提供した。
- ・7 月からの利用料金の値下げや、「子サポ de あずかりおためし券」の配布等でサポートが身近な預かりとして認知されて利用者、利用件数とも大幅に増えた。
- ・「横浜市地域子育て支援拠点サイト」の導入でより子育て中の方のサポート利用の増加が予想される。気軽な＝安易な利用とならないように地域とつながるきっかけとなるこの事業の意味を伝える工夫を積み重ねていきたい。

③子育てに関する情報の発信・提供

実施日時	通年
実施場所	緑区地域子育て支援拠点いっぽ
従事者	4 人
対象	緑区および近隣の未就学児とその保護者

支 出 額	1,308,971 円
事 業 実 績	『みどりっ子カレンダー』: 毎月 1000 部発行、掲載園 33 園、配布先 53 か所 『みどりっこひろば』: 随時情報更新 『みどりっこひろば』メールマガジン: 毎月発行 620 人登録(前年度 574 人) 『みどり子育て応援ガイドブック』改訂版編集 『みどりリング』: 年 2 回発行、3500 部発行

【1年間の報告】

- 区内の保育施設の地域開放事業を紹介する『みどりっ子カレンダー』では、保育園 28 園、幼稚園 5 園の情報を掲載している。毎月掲載のコラムでは、工作や地域情報など子育てに役立つ情報を提供した。緑区の子育て情報サイト『みどりっこひろば』では、イベント当日の緊急連絡等の周知媒体としても活用されている。
- 令和 4 年度に区といっぽが行った子育て支援に関するアンケートの結果から、情報入手先として、『みどりっこひろば』や『みどりっ子カレンダー』が活用されていることが分かった。今後求められる地域情報の収集に努める。

④集団出張保育

実施日時	通年
実施場所	活動なし
従事者	登録スタッフ 30 人
対 象	緑区および近隣区の子育て中の保護者とその子ども
支 出 額	0 円
事業実績	定期託児：なし 出張保育：なし (前年度 どちらも実績なし)

【1年間の報告】

- 託児の依頼はなかった。スポーツセンターは補修工事のため休館だったため、保育付きの講座も開催されなかった。

⑤地域に向けた子育て支援の促進事業

実施日時	通年
実施場所	緑区地域子育て支援拠点いっぽほか
従事者	3 人
対 象	緑区および近隣区の子育て中の保護者とその子ども
支 出 額	328,392 円

【1年間の報告】

- 緑区こども家庭支援課より受託している「赤ちゃん教室」中山会場、長津田会場の運営・進行を行った。中山会場でははなまるの利用につながる声掛けを行い、長津田会場では長津田地区の子育て情報を提供した。
- 参加している地域の連絡会等に積極的に参加し、顔の見える関係づくりをすすめた。また、子育て家庭について伝える機会ととらえ、日ごろの活動から見えている現状を伝えた。

<参加している緑区内の委員会・団体等>

「緑区地域施設間連携会議」

「緑区要保護児童対策地域協議会」いっぽ、はなまるともに参加

「緑区セイフティネット会議」

「十日市場施設間連携会議」

「緑区読書活動推進連絡会」

「緑区防災ネットワーク運営委員会」

「横浜市バリアフリー検討協議会緑区支部」

「緑区市民活動支援センター運営委員会」(運営委員 木村真佐子)

「横浜市北部地域療育センター運営協議会」

「緑区国際交流ラウンジ」(運営法人理事 松浦千恵)

「緑区地域自立支援協議会こども支援部会」

「みどり障がい児者ネットワーク」
「緑区社会福祉協議会NPO等分科会」
「子育てひろば全国連絡協議会」正会員
「十日市場自治会」特別会員
「新治西部地区社会福祉協議会」会員

(2) 障がいのある子どもと親への支援事業

実施日時	通年
実施場所	緑区地域子育て支援拠点いっぽ・中山地域ケアプラザ
従事者	4人
対象	緑区および近隣の未就学児及び小学生とその保護者、子育て支援に関わる人
支出額	66,794円
事業実績	気になる子のサロン 年間15回実施126人(大人66人・子ども64人)参加 先輩ママ17人、事業所等支援者14人参加 なないろ★ほっとタイム 年間12回実施72人(大人38人・子ども34人) 先輩ママ20人、事業所等支援者17人参加

【1年間の報告】

- ・いっぽを会場に「気になる子のサロン」を毎月行い、子どもの発達について不安や心配のある親同士が安心して話すことができる場を提供した。年2回、休館日である月曜日にひろばを開放し、気兼ねなくひろばで子どもを遊ばせることができる日を設けた。北部療育センターの職員が同席する回も設け、情報提供や、相談に対応してもらった。令和5年度より新たにダウン症児の親のためのサロンを設けた(年4回実施)。乳幼児期のダウン症児の話ができるサロンを求める声を受け、先輩ママの協力を得ながら、生活についての情報交換や、思いを共有できる場を作っている。
- ・令和4年度より中山地域ケアプラザを会場に行っている「なないろ★ほっとタイム」では、毎回テーマを設けて情報交換している。就園・就学についてなど、先輩ママの体験を聞きながら、不安に寄り添っている。昨年度に引き続き緑区や近隣区の児童発達支援事業所に声をかけて、それぞれの紹介をしてもらう回を設けた。事業所とのつながりもできた。
- ・子どもの多様性を理解する講座「この子らしさを大切に育てる子育て」(講師：星山麻木先生)を実施した。ありのままの子どもを受入れゆっくり向き合っていくことの大切さを伝える内容は、子どもだけでなくすべての人に当てはまると子育て中の親にも支援者にも好評の講座となった(参加者43名(うち支援者15名))。

(3) 児童及び青少年の健全育成にかかる事業

実施日時	通年
実施場所	緑区地域子育て支援拠点いっぽほか
従事者	3人
対象	地域の中中学生・高校生、福祉・子育て関連職に就く者
支出額	0円(主にいっぽの事業の中で行った)
事業実績	学生ボランティアのべ59人(44人)大学等実習生受入れ79人(25人)

【1年間の報告】

- ・十日市場中学校地域連携事業としてのボランティア受入れが4年ぶりに再会し、のべ11名の参加があった。乳幼児とのふれあいを通して、幼児の様子を知ったり、親の子どもへの思いに気づくなど、普段の生活ではできにくい経験ができる場を提供できた。乳幼児期に利用したことがある中学生の参加もあり、スタッフが成長を喜んだ。地域が子どもの見守っていることについて感じてもらう機会にもなっている。
- ・看護学校(横浜創英大学・横浜実践看護専門学校、イムス横浜国際看護専門学校)の母性看護学実習・地域包括ケア実習や、NPOインターンシップの受入れを行い、それぞれの学びにつなげることができた。令和5年度より新たに受け入れを行った地域包括ケア実習では、実際の親子の様子を見てもらいながら、地域で親子を支えることの意味や、緑区の様子を伝えた。

2023年度(令和5年度) 事業費合計 61,662,431円